

HAPPY MEDIA 越前・鯖江 地域みっちゃく生活情報誌

たにがわんくらぶ fan-nan club

2018 DEC

12
vol.12

発行部数
44,500部

発行部数 43,000部

発行部数 1,500部

発行部数 1,500部
（編集部・印刷部）
（編集部・印刷部）

フリモARを
表紙にかざして
小野谷機工株式会社の
写真をチェック!



ONODANI



巻頭特集

タイヤに特化した世界に誇る越前の企業 小野谷機工株式会社

常に新しい発想の製品を作る

◎特別企画

1年間頑張った自分へ 最高のご褒美を!

ご褒美ビューティ

地元の求人情報が満載! JIMOJOB

必ずダウンロード!!

スマートフォンのApp Store、
またはGoogle Playで「フリモAR」と検索!

表紙がもっと
楽しくなる!! **フリモAR**



YouTube

HAPPY MEDIA ちゃんねる

日本全国のローカル動画がいっぱい! チャンネル登録して楽しもう!



タイヤに特化した世界に誇る越前の企業
小野谷機工株式会社

常に新しい

発想の製品を作る

タイヤサービスに関する機械の製造販売を行う小野谷機工株式会社。

創業70周年を迎え、今年10月に新工場と新社屋が完成した。

顧客の意見を吸い上げながら、常に新たな研究開発を行う

小野谷機工株式会社の成り立ちと、今後に向けた思いを取材した。

全ては使う人のために
タイヤ史に残る発明企業

国内でも随一の技術を持ちながら、BtoB(企業間取引)の企業ゆえに地元であり知られていない企業がある。素早くタイヤの着脱や交換ができる電動式タイヤチェンジャーなど、タイヤ関連機械を製造販売する小野谷機工株式会社だ。設立は昭和46年だが、その原点は昭和初期までさかのぼる。社名の由来にもなった小野谷(現・越

前市小野谷町)の集落で、創業者・三村義雄さんの父は農機具の車輪改良を手がけていた。当時、農作業には荷車が不可欠だったが、木製の車軸と車輪は強度に乏しかった。父がゴム製のタイヤを採用すると、三村さんは事業化をめざした。自身でも、木製車輪の内側に鉄輪をはめ込んだ強



小野谷機工株式会社
取締役本部長 左膳 安友さん
現在150人の従業員が、30人程度だった時期に入社。会社の成長に関わり続けて34年、現場叩き上げで取締役本部長に就任した情熱の仕事人

度の高い車輪を試作する。昭和22年に「小野谷屋車輪店」を創業した。

高度経済成長期に入り、モータリゼーションの時代を迎える。「自動車の足元を支え、安全を守るのはタイヤだ」と考えて、メーン事業を農機具からタイヤに転換。パンク修理や部品再生も手がけるようになる。

タイヤ交換は熟練者が担う力仕事だった。自動車の普及にともない、人材不足が課題となる。三村さんは、誰でもタイヤ交換ができる機械の研究を始めた。

昭和36年10月、国内初の乗用車向け電動式タイヤチェンジャーを開発。事業は軌道に乗ると思われたが、特許取得をしていなかったことが裏目に出る。アイデアや技術を他社に利用され、類似製品が出回ってしまった。

特許取得数は約400件
顧客の希望に応える製品

「手がけたすべてをあきらめない」との一念から、昭和44年に大型車用タイヤチェンジャーの開発に挑戦。完成した「ダイナミカ」は約250万円と高価ながらも、需要に応じて瞬く間に全国へと広がる。わずか数年で400台を売り上げ、小野谷機工株式会社の主力製品となった。

その後も、競合製品の台頭や主力代理店の倒産など多くの危機

に直面したが、独自の製品開発を追求し、直販体制を強化して乗り越えてきた。長い歴史を経て、全国のタイヤショップや自動車整備会社、運送会社から厚い信頼を得る。修理をしながら長期間使用できる品質の良さから、海外の廉価類似製品との競合にも負けなかった。

品質だけでなく、ていねいな対応も顧客からの信頼を得る理由だ。札幌から福岡まで、全国10カ所の営業所がある。「範囲が広く移動も大変ですが、できる限り現場に足を運んでいます」と話すのは、取締役本部長の左膳安友さん。

「各地の営業との会議は、必ず顔を合わせて行います。お客さまの希望や困りごとを吸い上げ、より高品質で高付加価値のあるタイヤ関連製品を発明しています」

創業期から「どこにもない発明」を求めて研究を重ね、回転テーブルを備えたタイヤ着脱装置や作業車両などを作り続けてきた。現在の特許取得数は約400件にもなる。

働く人の幸せを第一に
百年続く企業をめざす

今年10月25日、新工場と新社屋が完成した。12号棟となる鉄骨造りの新工場には、数値制御旋盤11台と、マシニングセンターが2台、最新複合加工機1台を設置。機械加工の専門工場にしたことで、作

業動線が整理されて製造能力が向上した。

2階には100席ある開放的な社員食堂を設けた。新社屋は1階がバリアフリー。玄関では2機の人型ロボットPepperが顧客を出迎える。女性社員専用の保健室、トイレ、ロッカールーム、機械油で汚れた衣類を洗うためのランドリールームなど、さらに働きやすい設計を考えた。

「日本の人口減少に伴い、車やタイヤの需要も減っていくと予想できます。その中で生き残るすべが、豊かな人材による発明です」と左膳さん。「社員の負担を減らしながら、小野谷機工ならではの発明で他社と勝負していきたい」と前を見据える。

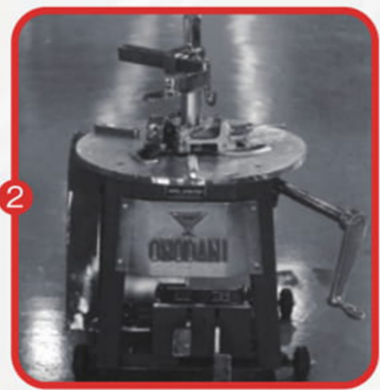
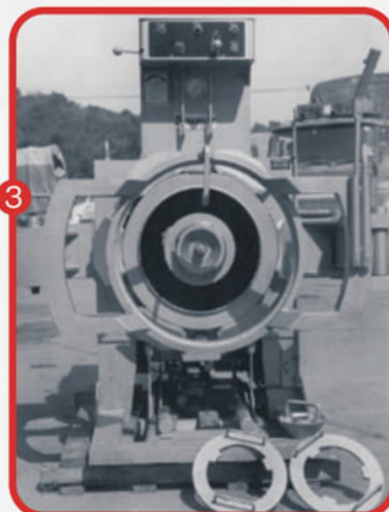
BtoBのタイヤ関連企業と聞いても、求職者にとっては仕事内容が想像しづらい。近年は、高校生や大学生のインターンシップを積極的に受け入れ、認知度向上と人材確保をめざす。イベントや体験コーナーで地元企業の魅力を発信する「越前モノづくりフェスタ」にも毎年出展。今年は、1時間も機械を見つめるほど興味津々の小学生がいたという。また、海外留学生の正社員雇用や、今夏からのパート雇用など、幅広い人材が活躍できるための制度を整えている。

人材育成の基本方針は、「物創りは人作り」。世界に誇る技術力の陰には、従業員の幸せを願う企業精神があった。

Information
小野谷機工株式会社
代表取締役社長 三村健二
0778-22-2124 越前市家久町63-1
ウェブサイト / <http://www.onodani.co.jp>



10月に竣工された新社屋。新社屋は社員が過ごしやすいように整備され、新工場では生産性アップを実現した



1 ボタンを押すだけで大型タイヤを楽々交換するタイヤチェンジャー「TB-881RS/RSF」。初号機から現在に至るまで積み重ねられた発明の結晶である 2 国産初のタイヤチェンジャー初号機。類似製品登場で巨額の損失となるも、不屈の精神で更生タイヤへの本格挑戦が始まった 3 「ダイナミカ」開発のきっかけは、実は大手タイヤ会社からの依頼だった。これが後のロングセラーマシン「ダイナミカS-20」へとつながった

